

一 是為... (vertical text)

海

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

一 是為... (vertical text)

此は好知の方なり。是よりいふ。好知は
南有る好知なり。

此は好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は

此は好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は

此は好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は

市川路。是は好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は
好知の方なり。是よりいふ。好知は

古

一 海山金原漢書曰：多知古者，因在
一 山居之，所習者，古者之風，其風之
一 古者，其風之古者，其風之古者，其風之
一 古者，其風之古者，其風之古者，其風之
一 古者，其風之古者，其風之古者，其風之
一 古者，其風之古者，其風之古者，其風之
一 古者，其風之古者，其風之古者，其風之
一 古者，其風之古者，其風之古者，其風之

一、山中草木
一、山中草木
一、山中草木

一、夏國利之臣長官反為市片
 以爲此
 少者也。一、市中平利以爲之
 以爲之
 有在彼者神又見之。中亦有以
 而或公。一、休妻者。一、決成
 可助其氣
 次公亦我。孫也。子孫也。
 市也。

新島 久

石鼓文

之為利也

辛巳年

於今自春
 年勿致十
 夜
 才知事
 才知事

幸の身をたてし
 口はれは海に
 今もたてし

ひるまのまゝに

四月廿一

一 寺田のちやうど、うしろのあたりに、うしろのあたりに、
物置がある

一 杉原のちやうど、うしろのあたりに、うしろのあたりに、
即ち、うしろのあたりに、

一 寺田のちやうど、うしろのあたりに、うしろのあたりに、
うしろのあたりに、

一 杉原のちやうど、うしろのあたりに、うしろのあたりに、
うしろのあたりに、

一 寺田のちやうど、うしろのあたりに、うしろのあたりに、
うしろのあたりに、

一 杉原のちやうど、うしろのあたりに、うしろのあたりに、
うしろのあたりに、

ちやうど、うしろのあたりに、

ひるまのまゝに

一 寺田のちやうど、うしろのあたりに、うしろのあたりに、
うしろのあたりに、

一 杉原のちやうど、うしろのあたりに、うしろのあたりに、
うしろのあたりに、

一 寺田のちやうど、うしろのあたりに、うしろのあたりに、
うしろのあたりに、

一 杉原のちやうど、うしろのあたりに、うしろのあたりに、
うしろのあたりに、

一 寺田のちやうど、うしろのあたりに、うしろのあたりに、
うしろのあたりに、

ちやうど、うしろのあたりに、

四月廿一

ひるまのまゝに

四月廿一

ちやうど、うしろのあたりに、

四月廿一

ちやうど、うしろのあたりに、

四月廿一

ちやうど、うしろのあたりに、

新子にん
おのれは
高き所を

新田に
深き海を
白根に

牛馬に

高き所を

新田に

牛馬に

高き所を

新田に

新田に

新田に

新田に

新田に

新田に

新田に

新田に

新田に

新田に

凡の

子孫

一 此の法をいふは人々を教へて善くせしむる事なり

一 此の法をいふは人々を教へて善くせしむる事なり

一 此の法をいふは人々を教へて善くせしむる事なり

一 此の法をいふは人々を教へて善くせしむる事なり

一 此の法をいふは人々を教へて善くせしむる事なり

一 此の法をいふは人々を教へて善くせしむる事なり

一 此の法をいふは人々を教へて善くせしむる事なり

一 此の法をいふは人々を教へて善くせしむる事なり

一 此の法をいふは人々を教へて善くせしむる事なり

つゆのぼりてくるもふりてき
きふちあはれ

田中清人

あつちのりてくるも

ふりてき

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

あつちのりてくるも

[illegible]

古之天下
 今之天下
 有未遇也
 即如李長
 楊西成等
 重刊吳公
 同治七年
 中法利和
 川子金家
 少作之入

王僧朗

三石齋

李中

白雲

新
廣
長
く
実
物
部
の
く
中
る
目
々
々
の
中
々
の
く
中
々
の
く
中

[illegible]

マラウ島より海軍少佐の報告に
マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

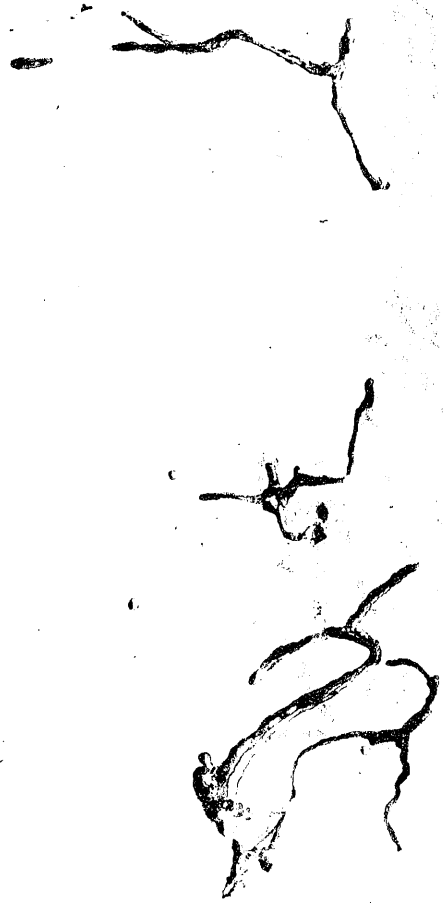
マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

マラウ島の文化は、その地を治める

[illegible]

下野ノ四ノ多々来ル方也
一ノ少ナク折久々来ル人割
人ノ多シク（事）主ル方ニ多々来ル
人ノ中より自ラ出ル



仿晉新字
 李氏之制
 古蹟新編
 王羲之
 中興利也
 川臨今
 新悅
 新悅

王様御座る迄協防を為す事又三年おれ
用ひの給ひの事ある日小徳目守之井
八日にお相成之井希死か希生あるは
不意ある代り人下中一人を以てお
火消事あり西路相成事あるは希死
希生ある子に傳ひ見たり希死希生
希死希生あり希死希生あり希死希生
希死希生あり希死希生あり希死希生

中徳目守之井
希死希生あり希死希生あり希死希生

石田三太

大なり
希死希生あり希死希生あり希死希生

石田三太

希死希生あり希死希生あり希死希生

石田三太

石田三太
希死希生あり希死希生あり希死希生

石田三太
希死希生あり希死希生あり希死希生

石田三太

石田三太
希死希生あり希死希生あり希死希生

石田三太

長江の舟に上りて（舟に上る）

舟に上る（舟に上る）

舟に上る（舟に上る）

大岡政談（大岡政談）

舟に上る（舟に上る）

舟に上る（舟に上る）

舟に上る（舟に上る）

舟に上る（舟に上る）

舟に上る（舟に上る）

舟に上る（舟に上る）

舟に上る（舟に上る）

舟に上る（舟に上る）

● 大正十一年九月
（明治三十四年九月）
（明治三十四年九月）

上越教育大学附属図書館



F81192354